

第8号の刊行によせて

石川県金沢城調査研究所は、今年度も着実に調査研究を進め、金沢城跡の実態解明に努めています。「寛文7年金沢図」の解読や、玉泉院丸庭園の文化財調査に着手しました。前者においては研究紀要第8号にその成果を収載し、後者においては重要な知見を得ました。

2月にはシンポジウム「天下普請にみる石垣技術」を開催し、金沢城石垣構築技術等比較研究事業の3年間の成果を県民の皆様にご報告させていただき、3月には『金沢城の三御門－河北門・橋爪門・石川門－』を刊行し、情報発信にも努めました。

本書第8号では、特集として「寛文7年金沢図」に関する3編の論文が収載されています。ここでは、「寛文7年金沢図」の解読事業の概要と、絵図に記載された人名・寺社名・藩役所等公的施設名を表として整理し、その作成意図を解説しています。木越論文は、「寛文7年金沢図」に書かれた藩士の配置状況からみて、藩主の側からの都市計画を明らかにしています。また池田論文では、「寛文7年金沢図」と「延宝金沢図」における藩医の居住地の比較検討などを行っています。

白峰論文は、文化5年の金沢城二の丸再建許可老中奉書と再建許可願絵図の内容について検討し、さらに金沢城修補許可願絵図の系譜と分類について考察しています。長屋論文は、土佐藩の公儀普請について概観し、石場の選定や労働力の編成・確保について明らかにしています。宮里論文では、甲府城の石垣と小諸城及び松本城の石垣の比較を試み、東日本の織豊系城郭石垣の構築技術における特色を提示しています。

その他、所員による日頃の研究成果の報告も併せて掲載し、多様な内容となっております。

最後になりましたが、玉稿をお寄せいただきました白峰、長屋、宮里、池田の4氏に感謝を申し上げますとともに、本書が県民の皆様の高い関心に応え、金沢城跡の保存・活用の一助となり、広く近世城郭史研究に資するものとなれば幸いと存じます。

平成22年3月

石川県金沢城調査研究所

所 長 北垣 聡一郎